

103-290

問題文

74歳男性。喘息にて近医から下記の薬剤(処方1及び処方2)が処方されていた。呼吸困難を自覚しており、禁煙したにもかかわらず、症状が改善しないため、呼吸器内科を受診したところ、新たにCOPD(慢性閉塞性肺疾患)と診断され、追加の処方(処方3)が行われた。

(処方1)

オルベスコ 100 μg インヘラー 56 吸入用^(注1) 1 本

1 回 2 吸入 1 日 1 回 朝 吸入

〔注1：シクレソニドを含有する加圧式定量噴霧吸入器 (pMDI)。1 吸入でシクレソニドとして 100 μg を吸入できる。〕

(処方2)

セレバント 50 μg ディスカス^(注2) 1 本

1 回 1 吸入 1 日 2 回 朝就寝前 吸入

〔注2：サルメテロールキシナホ酸塩を含有するドライパウダー吸入器 (DPI)。1 吸入でサルメテロールとして 50 μg を吸入できる。〕

(処方3)

スピリーバ 2.5 μg レスビマット 60 吸入^(注3) 1 本

1 回 2 吸入 1 日 1 回 朝 吸入

〔注3：チオトロピウム臭化物水和物を含有する吸入用器具。1 吸入でチオトロピウムとして 2.5 μg を吸入できる。〕

問290

吸入剤の服薬指導に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 加圧式定量噴霧吸入器は吸気と噴霧の同調が必要でないため、任意のタイミングで吸入するように説明する。
2. ドライパウダー吸入器は自己の吸気で吸入を行うため、十分な吸気力があるかを確認する。
3. 吸入薬は、内服薬と同等の全身性の副作用があると伝える。
4. 吸入指導を行う場合は、口頭説明だけでなく、吸入練習器具を用いて実践させることが望ましい。
5. 喘息発作時にはオルベスコを使用するように伝える。

問291

本患者の肺機能検査の結果、以下のような検査値が得られた。また、緑内障を合併していないことを確認した。本患者の病態及び薬物治療における注意点として、正しいのはどれか。2つ選べ。

努力肺活量(FVC) 2.72L(予測値：2.98L)、1秒量(FEV1.0) 1.42L(予測値：1.86L)、 PaO_2 75Torr、 PaCO_2 46Torr、血液pH 7.37

1. 可逆性の換気障害が特徴的である。
2. $50\% \leq \%FEV < 80\%$ であるので、病期はII期中等症である。
3. 処方3の薬剤を使用するにあたって、排尿障害があるか否かを確認する必要がある。
4. 感染の重症化を防ぐため、インフルエンザワクチン及び肺炎球菌ワクチンを年1回、接種するように指導する。
5. 在宅酸素療法の適応となる。

解答

問290：2, 4問291：2, 3

解説

問290



オルベスコ、セレベント、スピリーバ

選択肢 1 ですが

加圧式定量噴霧吸入器（pMDI）は、息を吸うタイミングが重要になります。任意のタイミングではなく、息を吸うタイミングと同調して容器をプッシュします。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、正しい記述です。

選択肢 3 ですが

吸入薬は局所作用を期待して用いる製剤です。全身性の副作用のリスクは内服薬と比較すると一般的に小さいといえます。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は、正しい記述です。

実際にやってみないとなかなかコツはつかめないものです。

選択肢 5 ですが

発作時に使ういわゆるリリーバーは、本処方には含まれません。オルベスコ使用は不適切です。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2,4 です。

問291

選択肢 1 ですが

COPD による閉塞性換気障害は、ゆっくりとかつ非可逆的に進行することが知られています。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2,3 は、正しい記述です。

%FEV₁は、予測値に対する実測値の割合です。（本問では、1.42/1.86 のこと） < 30% が極めて高度の気流障害です。また、チオトロピウムは抗コリン薬なので排尿障害の確認を必要とします。

選択肢 4 ですが

インフルエンザワクチン及び肺炎球菌ワクチンが、感染の重篤化を防ぐため推奨されるのは、正しい記述です。

ただし、肺炎球菌ワクチンはいったん接種すると「5年間」効果が持続します。従って肺炎球菌ワクチンを年1度接種するよう指導する、というのが誤りです。※インフルエンザワクチンは年1回接種が推奨されます。

選択肢 5 ですが

本試験時、 PaO_2 75はまだ適応外です。 PaO_2 60 以下から適応があり得ます。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2,3 です。